

令和7年度 第1学年数学科評価規準

学習内容	時期	本校通知表《観点別学習状況》における到達目標と評価方法		
		ア 主体的に学習に取り組む態度 ・ワーク、週末課題、定期テスト、確認テスト、小テスト 及びワーク等の発展的課題における総括的評価 ・自己評価、宿題、提出物への姿勢	イ 思考力・判断力・表現力 ・定期テスト、確認テスト、小テスト、及びワーク等の発展的課題における総括的評価 ・授業内の観察等の指導の過程の評価（形成的評価） ・相互評価（発言内容）	ウ 知識・技能 ・定期テスト、確認テスト、及びワーク等による総括的評価 ・授業の発言内容、問題演習による形成的評価
算数から数学へ 整数の性質 （4時間） 「正負の数」 ①正負の数 （5時間） ②加法と減法 （9時間） 【ICT活用】 ③乗法と除法 （9時間） 【ICT活用】 ④正負の数の利用 （5時間）	4月	○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。 ○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数の大小関係を考えようとしている。 ○正負の数の加法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の減法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の加法と減法の混じった式の計算の方法を考えようとしている。	○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見だし表現することができる。 ○正負の数の加法を、東西の移動をもとにして考え、説明することができる。 ○同符号、異符号の数の加法について、加えた2つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を見だし、説明することができる。 ○算数で学習したひき算と関連づけて、正負の数の減法を、数直線を使って考え、説明することができる。 ○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。 ○正負の数の乗法を、東西の移動をもとにして考え、説明することができる。 ○除法を乗法の逆算とみて、正負の数の除法の計算方法を考え、説明することができる。	○整数を2つの自然数の積の形に表すことに興味をもち、その結果からわかることはないか考えようとしている。 ○自然数を素因数分解することに興味をもち、いろいろな方法で素因数分解しようとしている。 ○正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結び付けて理解している。 ○反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を使って表したり、正負の数で表された数量の意味を読み取ったりすることができる。 ○数直線上の位置と正負の数の大小の関係を理解している。 ○数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 ○絶対値の意味を理解し、絶対値を求めることができる。 ○絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。
	5月	○正負の数の乗法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の除法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。 ○数の範囲と四則計算の可能性の関係を調べようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ○正負の数を利用して、身長の平均をくふうして求める方法を考え、説明することができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	○正負の数の加法の意味を理解している。 ○正負の数の加法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○正負の数では加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算できる。 ○正負の数の減法の意味を理解している。 ○正負の数の減法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○正負の数の項の和の意味を理解している。 ○正負の数の加法と減法の混じった式の計算方法を理解し、計算ができる。 ○正負の数の乗法の意味を理解している。 ○正負の数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○正負の数では乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算できる。 ○累乗の意味を理解し、正負の数の累乗の計算ができる。 ○正負の数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○正負の数の除法は、わる数の逆数をかけることと同じであることを理解し、逆数を使って乗法になおして計算できる。 ○正負の数の四則の混じった式の計算順序を理解し、計算ができる。 ○正負の数では分配法則が成り立つことを理解し、分配法則を利用した計算ができる。 ○具体的な場面で正負の数を使って表したり処理したりすることができる。
	6月	○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ○棒の本数を求める式から、その求め方を読み取って説明しようとしている。 ○1次式の計算方法を考えようとしている。 ○文字を用いた式について学んだ	○具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考察することができる。 ○棒の本数を求める式から、その求め方を読み取り、図を使って説明することができる。 ○具体的な場面と関連づけて、1次式の加法の計算方法を考え、説明することがで	○文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ○具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字式での積の表し方のきまりを理解し、文字式での積の表し方にしたがって式を表すことができる。 ○文字式での累乗の表し方のきまりを理

②文字式の計算 (5時間) ③文字式の利用 (8時間)	7月	ことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○等式と不等式の必要性和意味を考えようとしている。	ける。 ○具体的な場面と関連づけて、1 次式の減法の計算方法を考え、説明することができる。 ○立方体をつなげた棒の本数の求め方を、正方形をつなげた棒の本数の求め方と関連づけて考え、式や図を使って表現することができる。	解し、累乗の表し方にしたがって式を表すことができる。 ○文字式での商の表し方のきまりを理解し、商の表し方にしたがって式を表すことができる。 ○単位の異なる数量どうしの和や差の表し方を理解し、単位をそろえた式に表すことができる。 ○割合に関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○速さに関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○ π の意味と π を使った式の表し方のきまりを理解し、文字を使った式で表すことができる。 ○文字を使った式が表す数量を、読み取ることができる。 ○文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。 ○項と係数の意味を理解している。 ○文字の部分が同じ項を1つの項にまとめることができる。 ○1 次式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○1 次式と数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○1 次式と数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○1 次式のいろいろな計算ができる。 ○いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読み取ったりすることができる。 ○等式と不等式の意味を理解している。 ○数量の間の関係を等式や不等式で表すことができる。 ○等式や不等式が表す数量の間の関係を読み取ることができる。
	9月			
「方程式」 ①方程式とその解き方 (7時間) ②1 次方程式の利用 (9時間)	10月	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。 ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。 ○方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 ○方程式を活用した問題解決の過程を振り返ってその手順を検討しようとしている。 ○比例式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考え、式や図を使って説明することができる。 ○方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考え、説明することができる。 ○等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見だし、説明することができる。 ○1 次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。 ○求めた解が問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。 ○比例式の性質を利用して、具体的な問題を解決することができる。	○方程式とその解に関心をもち、方程式の解を求めようとしている。 ○方程式を解くことに関心をもち、方程式を解こうとしている。 ○具体的な事象を方程式でとらえることに関心をもち、方程式を問題の解決に利用しようとしている。 ○具体的な事象を比例式でとらえることに関心をもち、比例式を問題の解決に利用しようとしている。
	11月	○関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ○数の範囲を負の数までひろげると比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。 ○変域や比例定数を負の数にひろげて、比例のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。 ○比例について学んだことを生かして、比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。 ○数の範囲を負の数までひろげると反比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○比例のグラフの特徴を見だし、説明することができる。 ○比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。 ○比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。 ○反比例のグラフの特徴を見いだすことができる。 ○反比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。 ○反比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。 ○具体的な事象で関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして問題を解決することができる。	○関数の意味を理解している。 ○変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。 ○比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。 ○反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 ○ x の変域や比例定数を負の数にひろげても、比例の性質が成り立つことを理解している。 ○ y が x に比例するとき、1組の x 、 y の値から、 y を x の式で表すことができる。 ○座標の意味や点の位置の表し方を理解している。 ○点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。 ○比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る1つの直線であることを理解している。

④比例と反比例の利用 (6時間) 【ICT活用】		○変域や比例定数を負の数にひろげて、反比例のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○反比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。 ○反比例について学んだことを生かして、反比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。 ○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。 ○$a=bc$ で表される関係において、それらの数量の間の関係を考察することができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係を比例とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	○比例のグラフの特徴を理解している。 ○比例について、x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を理解している。 ○比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。 ○比例のグラフから式を求めることができる。 ○x の変域や比例定数を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つことを理解している。 ○y が x に反比例するとき、1組の x, y の値から、反比例の式を求めることができる。 ○反比例のグラフは、式をみたす点の集合であり、なめらかな2つの曲線であることを理解している。 ○反比例のグラフの特徴を理解している。 ○反比例のグラフをかくことができる。 ○反比例の値の変化の特徴を理解している。 ○反比例のグラフから式を求めることができる。 ○比例のグラフから、具体的な事象を読み取ることができる。
「平面図形」 12月 ①図形の移動 (6時間) 【ICT活用】 ②基本の作図 (7時間) ③おうぎ形 (3時間)		○2つの合同な図形の関係移動の見方で捉えようとしている。 ○図形の移動について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○定規とコンパスだけを使って、どんな図形がかけられるかを考えようとしている。 ○基本的な作図の方法を、線対称な図形の性質をもとにして考えようとしている。 ○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○しきつめ模様を図形の移動の見方でみることができる。 ○2つの合同な図形の関係移動の見方で捉え、説明することができる。 ○正六角形がかけられる理由を、コンパスの役割に着目して考え、説明することができる。 ○交わる2つの円の性質を見だし、説明することができる。 ○直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。 ○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する方法を考え、説明することができる。 ○基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、説明することができる。	○平行移動の意味とその性質を理解し、ある図形を平行移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○回転移動の意味とその性質を理解し、ある図形を回転移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○対称移動の意味とその性質を理解し、ある図形を対称移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○円に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○交わる2つの円の性質を理解している。 ○垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○点と直線との距離、平行な2直線の距離の意味を理解している。 ○線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○2点から等距離にある点は、線分の垂直二等分線上にあることを理解している。 ○角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○角の2辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあることを理解している。 ○円の接線、接点の意味と円の接線の性質を理解している。

「空間図形」 ①いろいろな立体 （3時間） 【ICT活用】 ②立体の見方と調べ方 （9時間） 【ICT活用】 ③立体の体積と表面積 （8時間）	1月	○空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えようとしている。 ○空間図形を平面上に表現して、平面上の表現から空間図形の性質を見いだそうとしている。 ○立体図形の体積や表面積の求め方を考えようとしている。	○立体をいろいろな見方で分類し、立体のどこに着目して分類したかを説明することができる。 ○角柱と角錐、円柱と円錐、角錐と円錐の共通点やちがいを見だし、説明することができる。 ○正多面体の共通点やちがいを見だし、説明することができる。 ○正多面体の面の数、辺の数、頂点の数などをもとにして、正多面体の性質を見だし、説明することができる。 ○空間内にある平面が1つに決まる条件を、具体物を用いて考え、説明することができる。 ○空間内にある直線と平面が垂直であることを確かめる方法を、具体物を用いて考え、説明することができる。 ○空間内にある平面と平面のつくる角の決め方を、具体物を用いて考え、説明することができる。 ○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ○立体を展開図に表して、面の実際の形や長さの関係を捉えることができる。 ○底面が正多角形の角錐で、その底面の辺の数を増やしていくと、その展開図は円錐の展開図に近づくことと捉えることができる。 ○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求める方法を考え、説明することができる。 ○投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考え、説明することができる。 ○角錐や円錐の体積を、底面積が等しく、高さが等しい角柱や円柱の体積と比べ、その求め方を考え、説明することができる。 ○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考え、説明することができる。 ○球の体積や表面積を、その球がちょうど入る円柱の体積や表面積と比べ、その求め方を考え、説明することができる。	○多面体の意味を理解している。 ○角錐、円錐の意味とそれらの特徴を理解している。 ○正多面体の意味を理解している。 ○正多面体の辺の数や頂点の数を求めることができる。 ○空間内にある平面が1つに決まる条件を理解している。 ○空間内にある平面と平面の位置関係や交線の意味を理解している。 ○空間内にある平面と直線の位置関係を理解している。 ○空間内にある直線と直線の位置関係やねじれの位置にあることの意味を理解している。 ○空間内にある直線と平面の垂直を理解している。 ○空間内にある平面と平面のつくる角を理解している。 ○点と平面との距離、平面と平面との距離の意味を理解している。 ○母線、回転体の意味を理解している。 ○平面図形の移動によってできる立体の見取図をかくことができる。 ○角柱や円柱の展開図とその特徴を理解している。 ○角柱や円柱の展開図で、側面になる長方形の横の長さを求めることができる。 ○角錐の展開図をかくことができる。 ○角錐や円錐の展開図とその特徴を理解している。 ○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の弧の長さを求めることができる。 ○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 ○円錐の展開図をかくことができる。 ○投影図の意味と立体の投影図のかき方を理解している。 ○立体の投影図から、その立体を読み取ることができる。 ○角柱や円柱の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○角錐や円錐の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。
「データの分析と活用」 ①データの整理と分析 （5時間） 【ICT活用】 ②データの活用 （2時間） 【ICT活用】 ③ことがらの起こりやすさ （6時間）	2月 3月	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。 ○代表値や範囲の必要性や意味を考えようとしている。 ○ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしたりしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	○度数分布表やヒストグラムから、データの分布の特徴を読み取り、説明することができる。 ○相対度数の折れ線から、2つのデータの分布を比較し、説明することができる。 ○代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 ○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解し、それらを用いてデータを整理することができる。 ○累積度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。 ○相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。 ○累積相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。 ○代表値や範囲の必要性和意味を理解し、それらを求めることができる。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。